



「織部花紋鉢」 2004年 高14.9／口径29.2 瀬戸市美術館蔵



「黄瀬戸草紋花瓶」 2006年 高32.0／口径38.6 個人蔵



「灰釉糸紋花器」 1992年 高59.0／口径29.3 瀬戸市美術館蔵

瀬戸信用金庫アートギャラリー企画展

五代 加藤作助回顧展

令和5年7月29日(土)～令和5年8月27日(日)

開館時間 10:00～16:00

休館日 月曜日・火曜日

※「瀬戸信用金庫所蔵 北川民次展」は上記休館日以外は常時ご覧いただけます。

※休館日に関しては、HPでもご確認いただけます。

入館料 無料

主催 瀬戸信用金庫、(公財)瀬戸市文化振興財団

助成 (公財)瀬戸信用金庫地域振興協力基金

瀬戸信用金庫アートギャラリー

〒489-0897 愛知県瀬戸市東茨町36番地の11
TEL 0561-82-3100 FAX 0561-82-1619



瀬戸信用金庫アートギャラリー
HP・QRコード

- 1940(昭和15年) 瀬戸市に生まれる(幼名 伸也)
- 1964(昭和39年) 東京藝術大学彫刻科卒業
- 1966(昭和41年) 東京藝術大学大学院陶芸講座修了
加藤土師萌・藤本能道・田村耕一氏に師事
- 1969(昭和44年) 第16回日本伝統工芸展初入選
- 1987(昭和62年) (社)日本工芸会 理事就任
同 東海支部 幹事長就任~2008
- 1992(平成4年) 愛知県立芸術大学陶磁専攻教授~2006
- 1998(平成10年) 瀬戸市指定無形文化財
「陶芸 織部・黄瀬戸」保持者認定
- 2004(平成16年) 愛知県指定無形文化財
「陶芸 織部・黄瀬戸」保持者認定
- 2006(平成18年) 父作助逝去により、五代作助を襲名
- 2013(平成25年) 瑞宝小綬章受章
- 2022(令和4年) 逝去

昨年ご逝去された五代 加藤作助をしのぶとともに、生前、瀬戸の陶芸を牽引した業績をたたえ、「五代 加藤作助回顧展」を開催します。

千年以上の歴史を有するやきもの産地で伝統を受け継がなくてはならない家に生まれ、「瀬戸」「伝統」を理解しながら新たな表現方法を模索していくことが五代 作助の命題として背中に重くのしかかっていたと思われます。

五代 加藤作助は、伝統を継承する卓越な技が認められ、2004年に愛知県指定無形文化財「陶芸 織部・黄瀬戸」保持者に認定され、また、長年、愛知県立芸術大学で教授を務め、後進の育成に尽力されました。

この企画展では、代々、伝統を引き継いできた織部・黄瀬戸の作品とともに作助が独自の世界観を表現した灰釉象嵌の作品を展示します。作品を通して五代 作助の歩んできた生き様をご覧ください。



加藤 作助 KATO SAKUSUKE
1940(昭和15年)~2022(令和4年)



「灰釉印紋鉢」1973年 高26.8/口径44.5 瀬戸市美術館蔵



「灰釉条紋花器」1988年 高35.2/口径29.3 個人蔵



「織部条紋花器」1995年 高60.0/口径28.1 瀬戸信用金庫蔵



「織部条紋花器」2002年 高48.7/口径34.3 個人蔵



「黄瀬戸草紋皿」2006年 高7.6/幅45.4 個人蔵



初代作助(寿齋)「若松画茶盃」高6.6/口径13.6 個人蔵

同時
開催

常設展示

「瀬戸信用金庫所蔵 北川民次展」

当館1Fコレクション展示コーナー

次回
展覧会

企画展

「臼井薫写真展

—なつかしい瀬戸の風景—

令和5年9月2日(土)~10月1日(日)

交通案内

【公共機関でのアクセス】

- 電車 名古屋駅から(所要約1時間)
地下鉄東山線で「栄」へ。名鉄瀬戸線に乗り換え「栄町」から「尾張瀬戸」下車、徒歩15分。
- バス 瀬戸駅前(尾張瀬戸駅北側バスロータリー)から(所要時間約5分)
名鉄バス菱野団地行「瀬戸駅前」から「陶栄町」下車、徒歩スグ

【お車でのアクセス】

- 長久手I.C.から(所要約30分)
東名高速道路「長久手I.C.」を降りて瀬戸方面へ。グリーンロード「愛・地球博記念公園」、または「八草I.C.」まで行き、左折(北)し、瀬戸市街地へ。
- せと赤津I.C.から(所要約10分)
東海環状自動車道「せと赤津I.C.」を降りて瀬戸市街地へ。

※駐車場: 無料(18台)

